



現代によみがえる海松文の陶磁器

ミル（アオサ藻綱ミル目）は私たちの生活に古くから縁のある海藻であり、独特の色や形を基に伝統色（海松色）や紋様（海松文）がつくられ、生活の中で用いられてきました。海松文は、現在でも和装等で見ることができますが、残念ながら普段の日常生活で馴染みあるものとは言えません。そんな中で、江戸時代につくられていた海松文の陶磁器を現代に復活させた窯が熊本県にあると聞き、工房を訪問しました。

訪れたのは、熊本県天草市天草町高浜にある高浜焼寿芳窯（上田陶石合資会社）です。天草町は天草下島の西海岸に位置し、熊本市内からは自家用車で約3時間かかります。現在は道路がかなり整備されましたが、江戸時代は海路で長崎との結びつきの方が強い場所でした。天草で採掘される天草陶石は砥石として元々切り出されていましたが、平賀源内が「天下無双の上品」と評するほどの高品質な白磁原料であることが伝わり、有田や瀬戸などの高級磁器の原料として用いられてきました。

天草高浜焼は宝暦12年（1762年）に始まった歴史ある窯として知られており、当地の庄屋であった上田家によって代々営まれてきました。工房に併設された資料館には、海松文が描かれた江戸時代中期の作品が収蔵されています（写真下）。窯は明治時代に一度途絶えましたが、昭和27年（1952年）に再興され、海松文の陶磁器も復刻されました（写真右上）。現在では、江戸時代当時とほぼ同寸の平皿の他、コーヒーカップや深鉢、小皿など、現代的にアレンジされた作品が多数販売されています。高浜焼は、透き通るような白さと薄さが特徴ですが、白地に藍色で描かれた海松文は独特の味わいがあり、見る人を引きつけます。また、装飾品としてだけでなく、日用品としても使えます。

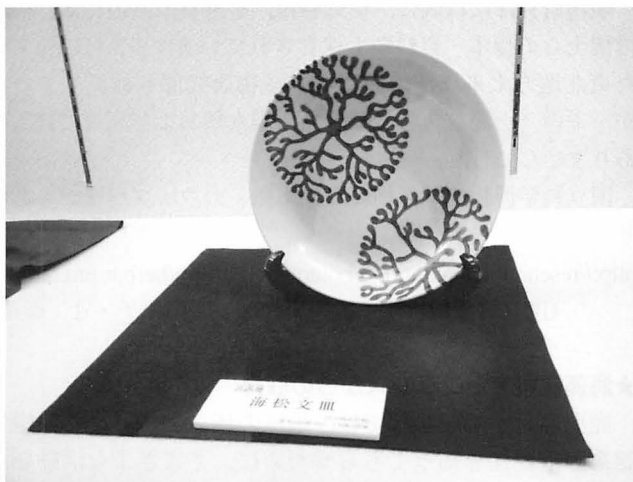
海松文の陶磁器は、高浜焼寿芳窯に併設された売店（写



復刻された海松文の平皿



工場に併設された売店の海松文コーナー



資料館に展示されている江戸時代中期の作品

真右)で購入できます。また、春や秋に開催されている天草地方の陶器市や熊本市内にある熊本県伝統工芸館、百貨店でも購入できます。お話をお聞きした総務課長の田中光徳さんによると、海松文の陶磁器は全国紙にも掲載されるなどして問い合わせも多いそうで、インターネットの同工房のサイト（URL）にも作品がいくつか掲載されています。URLに掲載されている作品は、電話等でも購入可能です。

藻類が日本人の生活に古くから縁あることを感じながら、熊本に根付く伝統工芸品を鑑賞されるのはいかがでしょうか。
（寺田竜太）

高浜焼寿芳窯 〒863-2804 熊本県天草市天草町他浜南 598

営業時間：平日 午前8:00～午後5:00

土日祝 午前8:30～午後5:00

電話：0969-42-1115 FAX 0969-42-0640

URL：<http://takahamayaki.jp/index.html>